

資料2

ペットボトルリサイクルの現状

平成29年4月11日(火)
(公財)日本容器包装リサイクル協会

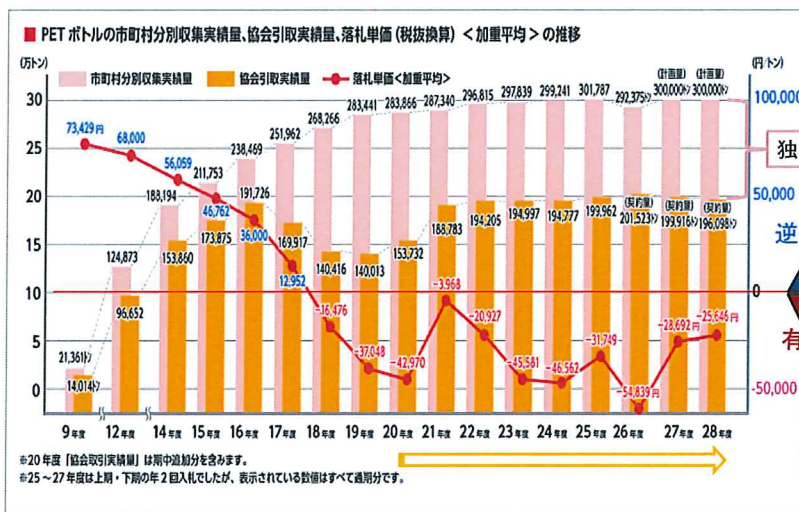
目 次

1. 入札、落札の状況
 - (1)市町村からの申込状況
 - (2)平成20年度以降の年度別・落札単価推移
2. 再商品化実施状況
 - (1)年度別販売、在庫の月別推移
 - (2)用途別販売量推移(繊維、シート、飲料用ボトル)
 - (3)国内、輸出別販売量推移
3. ペットボトルリサイクルを取り巻く状況
 - (1)再生処理事業者の最近の動向
 - (2)中国関連の最近の動向
4. ペットボトルリサイクルの課題 (まとめ)

(公財)日本容器包装リサイクル協会

2

1. 入札、落札の状況



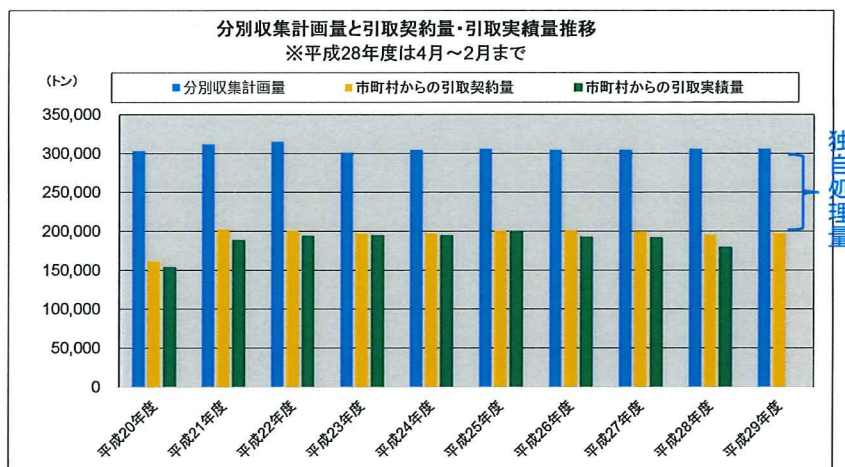
(公財)日本容器包装リサイクル協会

3

1. 入札、落札の状況

(1)市町村からの申込状況

①市町村分別収集実績量と協会引渡量の推移



(公財)日本容器包装リサイクル協会

4

1. 入札、落札の状況

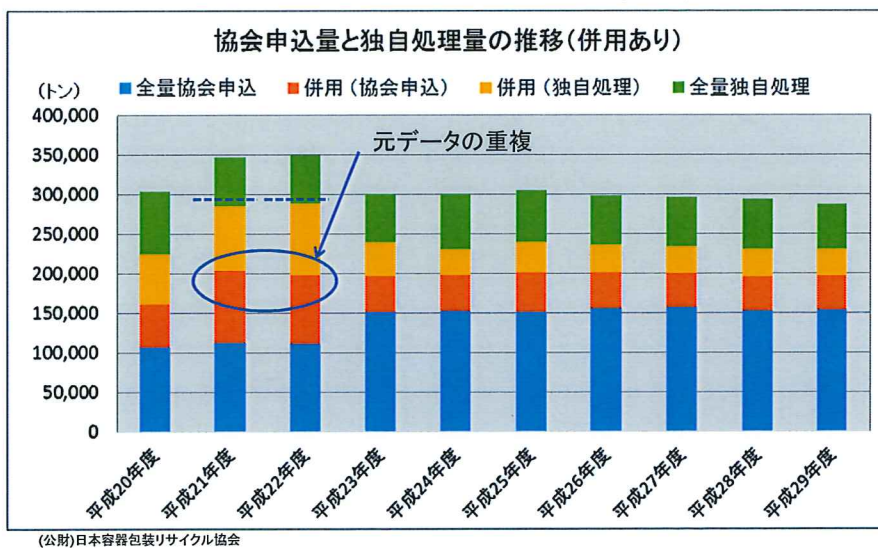
②市町村の協会／独自／併用の申込状況の推移 (市町村数)



5

1. 入札、落札の状況

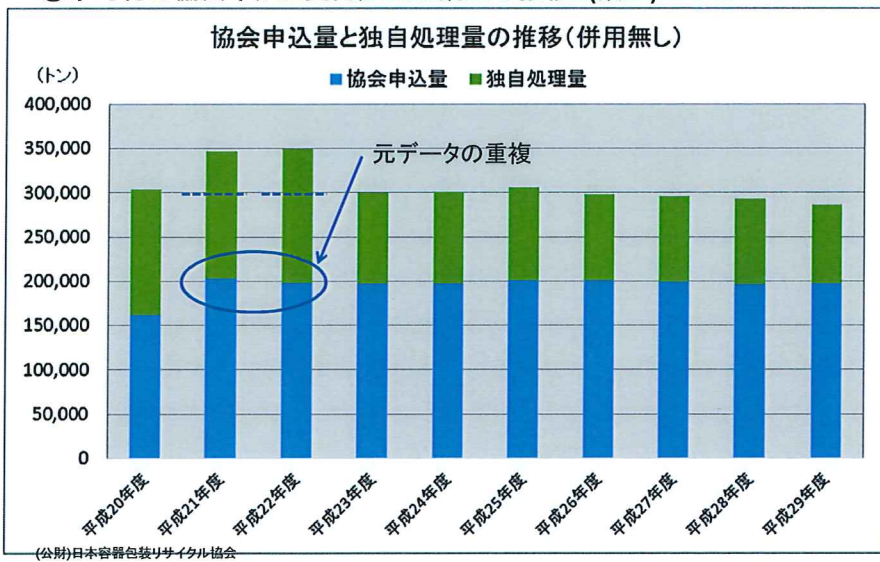
②市町村の協会／独自／併用の申込状況の推移 (数量)



6

1. 入札、落札の状況

③市町村の協会申込と独自処理の数量の推移 (数量)



7

1. 入札、落札の状況

(2)平成20年度以降の年度別・落札単価推移

①加重平均単価 ※緑は年間平均単価



8

1. 入札、落札の状況

(2)平成20年度以降の年度別・落札単価推移

②有償比率



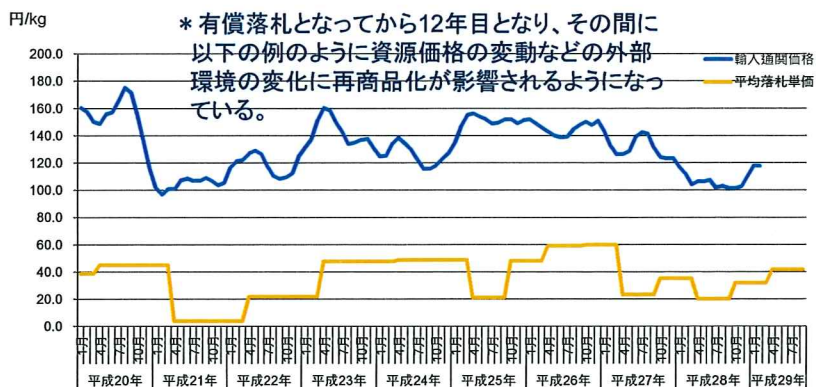
(公財)日本容器包装リサイクル協会

9

1. 入札、落札の状況

(2)平成20年度以降の年度別・落札単価推移

③PET樹脂輸入通関価格および容リ協PETボトル分別基準適合物平均落札単価の推移



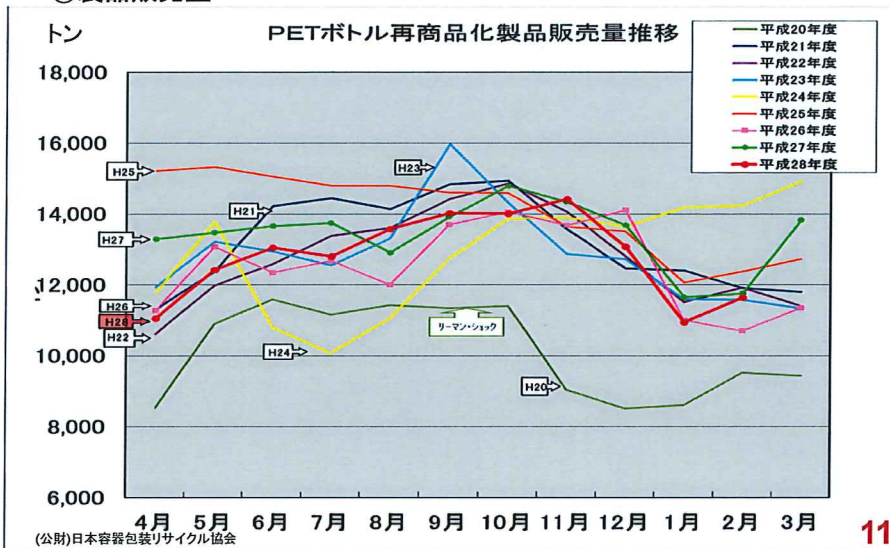
(公財)日本容器包装リサイクル協会

10

2. 再商品化実施状況

(1)年度別販売、在庫の月別推移

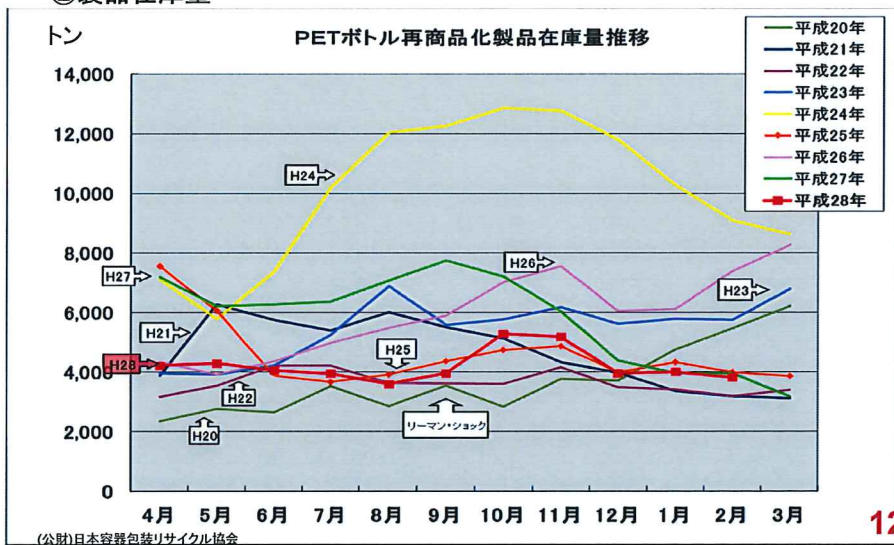
①製品販売量



2. 再商品化実施状況

(1)年度別販売、在庫の月別推移

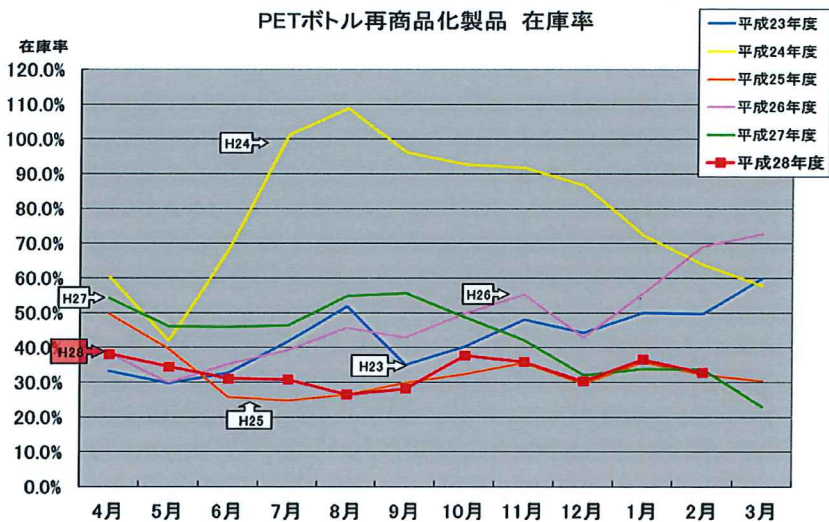
②製品在庫量



2. 再商品化実施状況

(2)年度別販売、在庫の月別推移

③製品在庫率

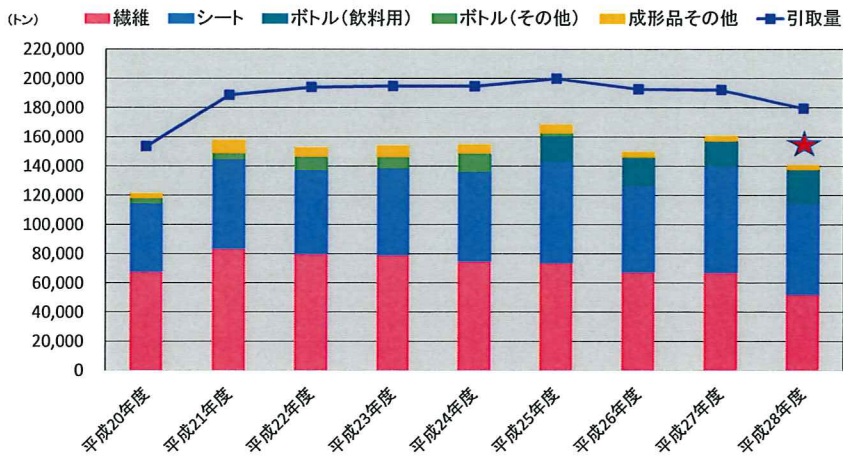


13

2. 再商品化実施状況

(2)用途別販売量推移(繊維、シート、飲料用ボトル)

①再商品化製品の用途別販売量推移 (★平成28年度は4月~2月まで)



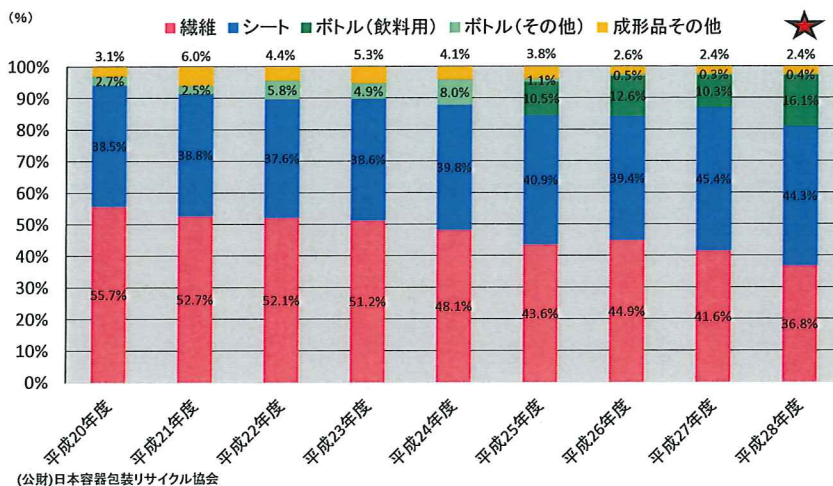
(公財)日本容器包装リサイクル協会

14

2. 再商品化実施状況

(2)用途別販売量推移(繊維、シート、飲料用ボトル)

②再商品化製品の用途別販売量構成比推移(★平成28年度は4月～2月まで)
 ※平成25年度よりボトル用途を(飲料用)(その他)に分かれている

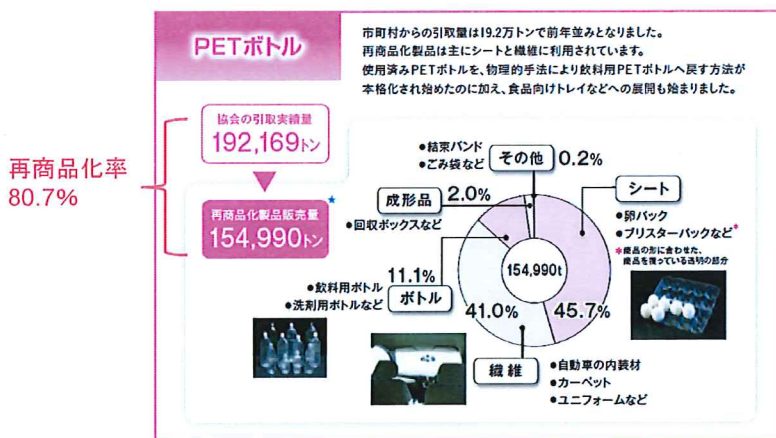


15

2. 再商品化実施状況

(2)用途別販売量推移(繊維、シート、飲料用ボトル)

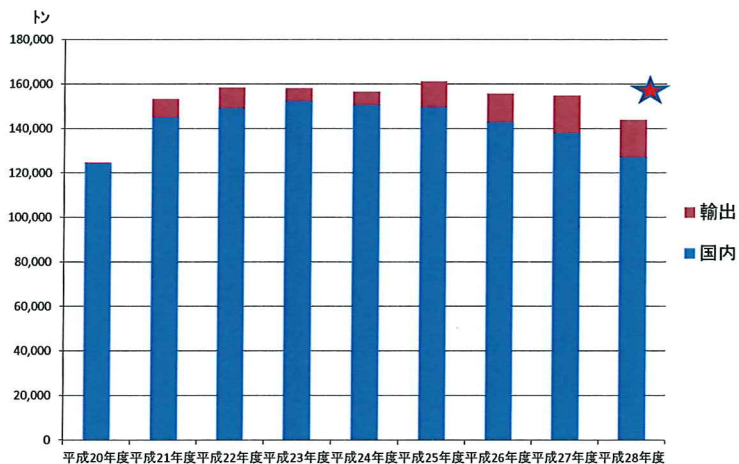
③平成27年度引取分の用途別販売実績



16

2. 再商品化実施状況

(3)国内、輸出別販売量推移 (★平成28年度は4月～2月まで)



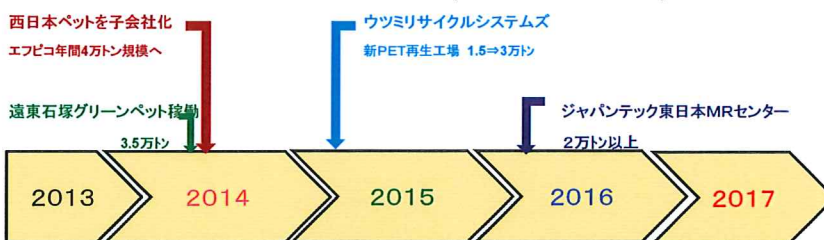
(公財)日本容器包装リサイクル協会

17

3. ペットボトルリサイクルを取り巻く状況

(1)再生処理事業者の最近の動向

①グループ化、新規参入、能力拡大 (新聞報道に基づく)



②査定能力(*),登録事業者数の状況

(*)登録時の査定能力≠落札可能量

2014⇒2015新規登録1社、事業撤退等4社

417,200トン
60社66施設

2015⇒2016事業撤退等2社

405,000トン
57社63施設

2016⇒2017新規登録2社、事業撤退等2社

392,000トン

52社57施設

426,600トン

52社58施設

(公財)日本容器包装リサイクル協会

18

3. ペットボトルリサイクルを取り巻く状況

(2)中国関連の最近の動向

①概況

➤市町村独自処理の一部、事業系の大部分の廃PETボトルは中国

(香港含む)へ輸出されている。実績として平成28年23万トン(*1)。

➤バージンPET樹脂輸入相手国の第1位は中国。その輸入価格の

動向は、我が国のPETボトルリサイクルに影響する。(*2)

(*1)平成28年1～12月、HSコード3915.90:「プラスチックのくず/ポリ(ポリエチレンテレフタレート)のもの」36.5万トンのうちフレーク状のものの数量

(*2)平成28年1～12月、HSコード3907.60の全輸入量97万トンのうち、中国からの輸入量は47.3万トン(48.8%)

3. ペットボトルリサイクルを取り巻く状況

(2)中国関連の最近の動向

②加工貿易禁止令の影響

➤平成27年1月から、PETボトルフレークを輸入し繊維製品などに加工して輸出する場合に適用されていた、輸入関税や増値税の課税留保などの優遇制度が廃止された。

➤通常の輸入を行い製品輸出時に税の還付を受ける方法をとることで、PETボトルフレークの輸入については大きな影響がないことを現地の再生繊維メーカーへのヒアリングで確認した。

3. ペットボトルリサイクルを取り巻く状況

(2)中国関連の最近の動向

③第十三次5カ年計画の影響

- 中国の第13次5カ年計画(2016～2020年)では、二酸化炭素排出量の削減率や大気の質、水質について数値目標を定めている点、そして持続可能な発展に絡む都市化問題についても扱っている。
- これを受けて、PETボトルフレークを消費する再生繊維業界でもエネルギー、電気、水使用、排気、廃水、生産管理等々に関する業界基準をこれから作る段階にある。
- 業界が基準案を作成し、国に提示し承認されれば、国(具体的には工信局)が発表し施行される。さらに地方政府は、国を参考に管轄内の企業をチェック・選別する。このような仕組みが開始されれば、今後5～10年の間に、水、土地、大気の対策法で免許が受けられない企業は業務停止となる。

(公財)日本容器包装リサイクル協会

21

3. ペットボトルリサイクルを取り巻く状況

(2)中国関連の最近の動向

④中国製PET樹脂に対する不当廉売関税の申請

- 日本のPET樹脂メーカー4社により、中国製の高重合度(ボトル、シート用)PET樹脂について、不当廉売関税の申請が出され、平成28年9月に調査が開始された。
- 申請されたダンピングマージン率は20.07%～38.54%

(公財)日本容器包装リサイクル協会

22

4. ペットボトルリサイクルの課題(まとめ)

- 有償落札となってから12年目となったが、その間に資源価格や為替の変動などの外部環境の変化に再商品化が影響されるようになってきている。
- 逆有償を前提として設計された容リ制度が、産構審・中環審合同会合の報告書にあるように、国内循環産業の育成、安定的な国内循環の推進や、素材産業としてリサイクルを推進するために相応しい制度であるかの点検が必要となっているのではないか。
- 本検討会でのヒアリングなどを通じて、有償化された資源価値の高い使用済みペットボトルに相応しい制度にすべく、ペットボトルリサイクルの現状における課題を抽出、整理し、検討してゆく。